



^ 13  
3811  
15

蝦蟆妖術  
大蛇怪異

# 兒雷也豪傑譚

第八輯上

美園垣笑顏作

陽齋遊國画

門牌 13  
3815

維時弘化四年歲  
在丁未早春禧脫  
回五年戊申新春  
發兌



甘泉堂  
お京屋市を板



蛙

蛙

深泉  
自鼻

門  
國  
慶  
の  
為

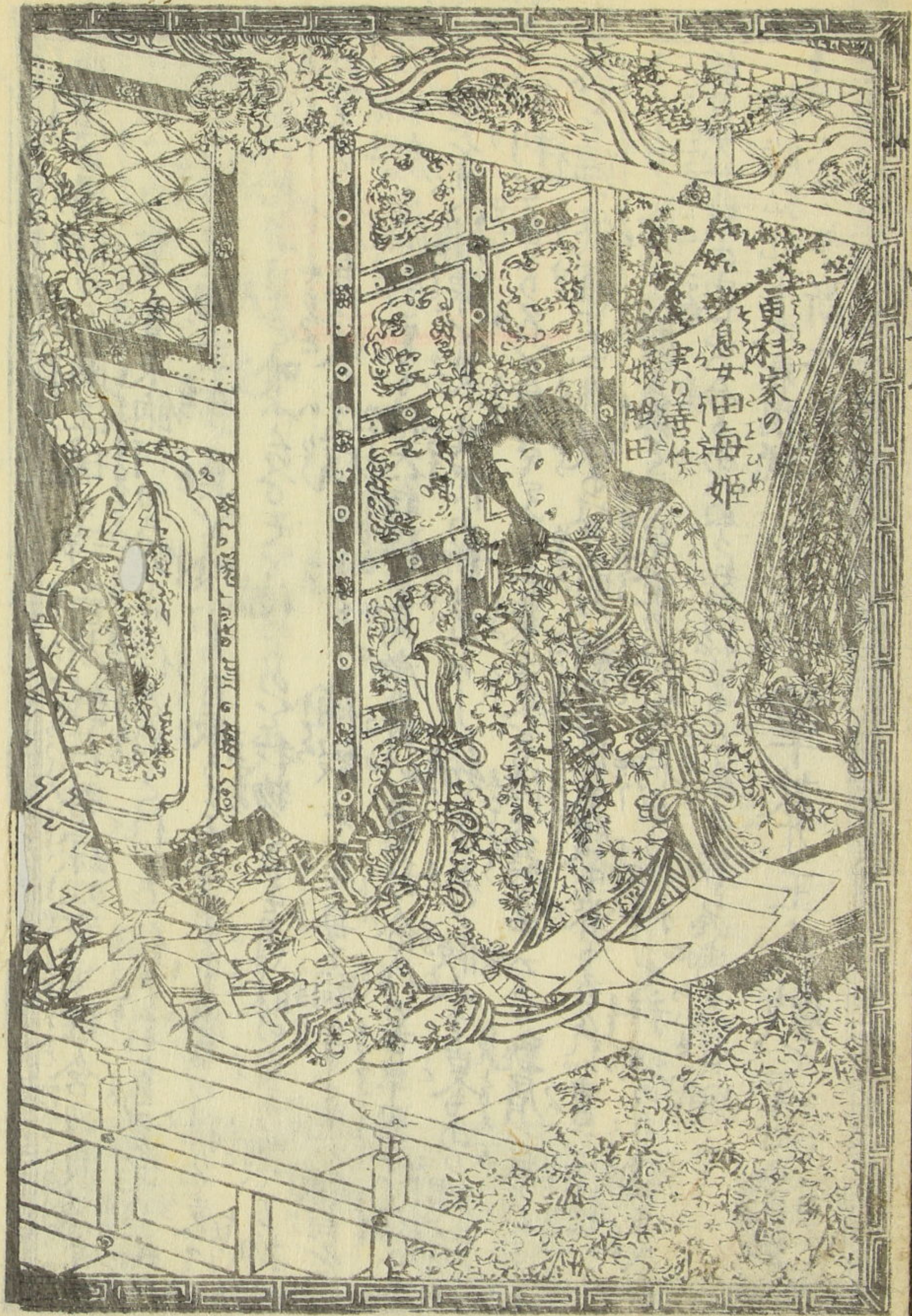
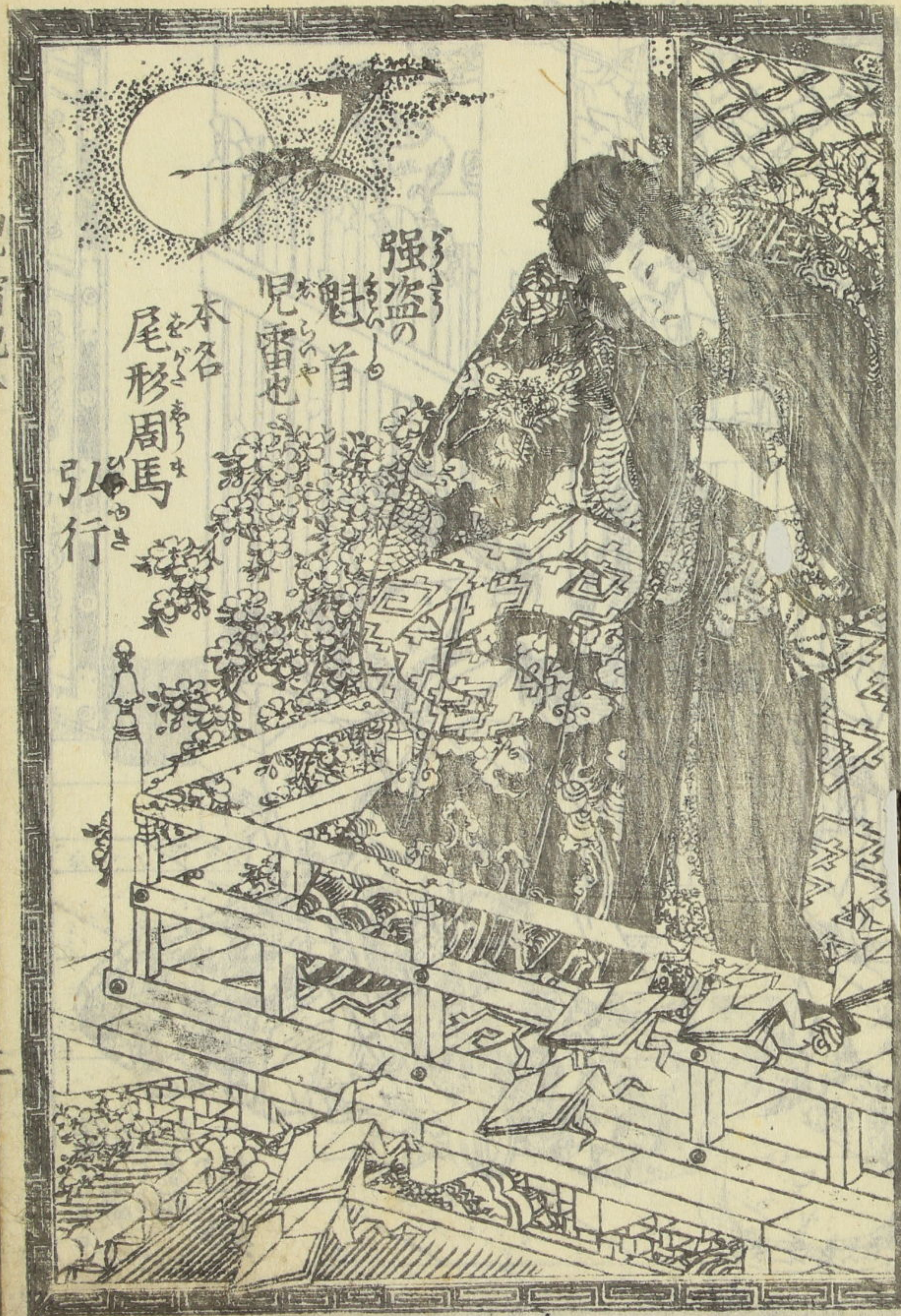
唐漬の楊材の人蘭玉瑞が詩曰荷錢符帶緑江空唼鯉含汝負淡草  
中波上魚鷹負未飽何西曾此信天翁と作り信天翁鳥の名自痴  
鳥とも号う海上お在て臭と喰へも自取る事あるを奥鷹鳥の捕と落  
とあれはかきそ是を喰ふたのそと他ののめ我物とるを愚昧の責小喻へち抑  
此葉手ハ作世有波吹の送稿あり夫を補綴して年毎小詞省と他の趣向を  
我物類由係削するも信天翁拙鳥濟の所りる故人の作の古草冊子ハ  
題を更練像く更て其依お新著うく紛ら名と假入る夏あり蠅頭  
故記を温て洗濯を唯漫めれ目前の新案從來腹の脊ゆるんれ書遣て利  
も克上日く賣る勝と節と甘泉堂の仕込の荷出塩梅と料理の手盛も八  
編目兒女輩の山口史合もあらぬ知れ移とも今年も替る御具負願ふと

維時弘化丁未春稿脱  
同戊申年新春發兌

一筆芥舟主人戲て誌

第十

已  
番  
九  
八





園分寺の山門の  
 強盗住て諸人  
 患苦の蝶吉捕人の  
 向ひて首長と云ふにま

蝶吉の  
 夢野



坂東の  
 於細



大坂下

大坂下

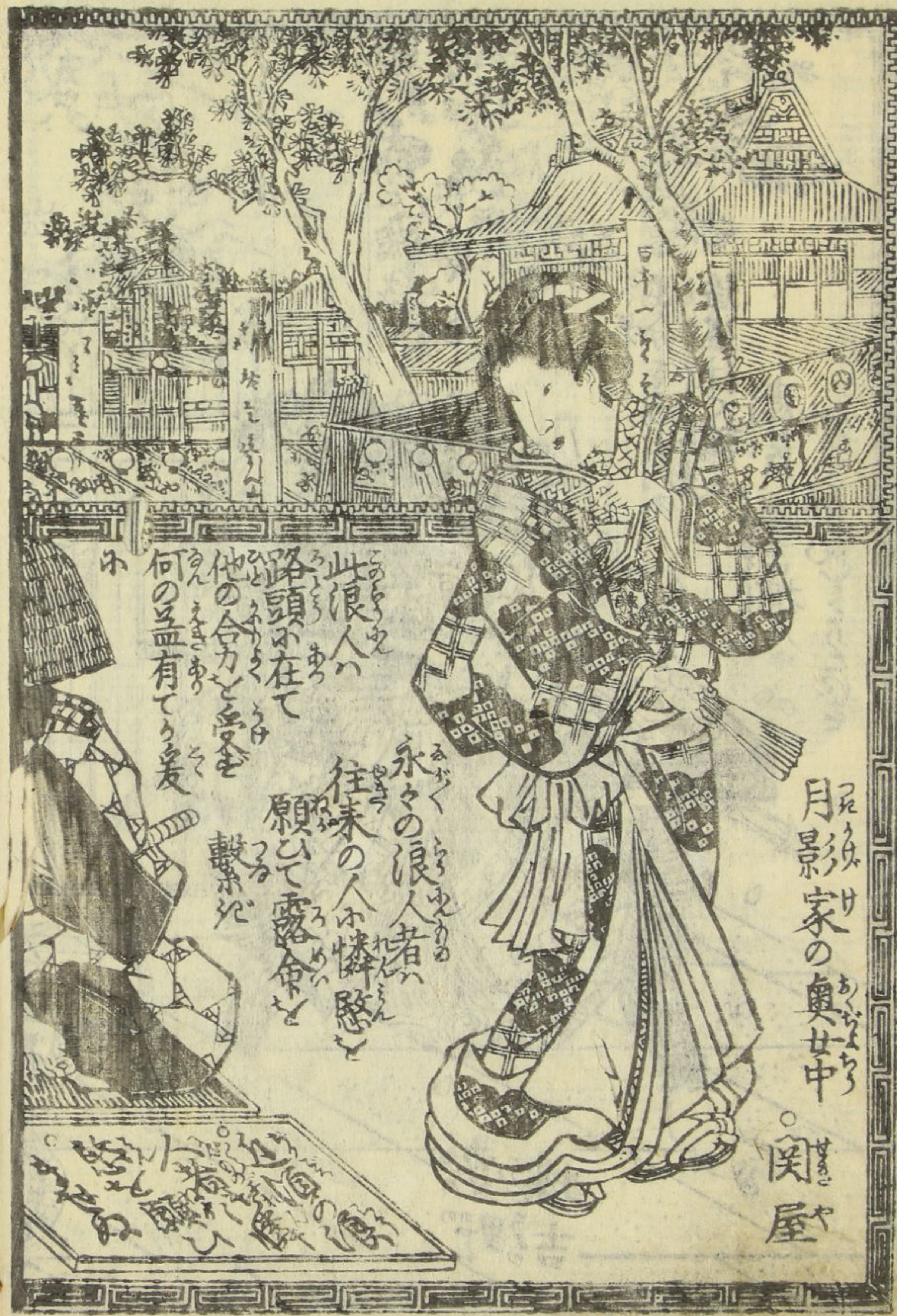
録倉  
長谷観音  
内境帳

偶々  
夏の中  
小

高砂勇見  
之助善任

更科の家

浪人無名士



関屋

此浪人の  
路頭不在  
他の合方  
何の益有  
てり爰

永々の浪人者  
往來の人  
願ひて露  
命と

月影家の奥女中  
関屋

三











Vertical text columns on the left side of the illustration, likely providing a narrative or commentary related to the scene.

Vertical text columns at the bottom of the illustration, continuing the narrative or commentary.



Vertical text columns at the top of the illustration, likely providing a narrative or commentary related to the scene.

Vertical text columns at the bottom of the illustration, continuing the narrative or commentary.











^ 13  
 3811  
 16





門へ13  
 3811  
 巻 16

見書也

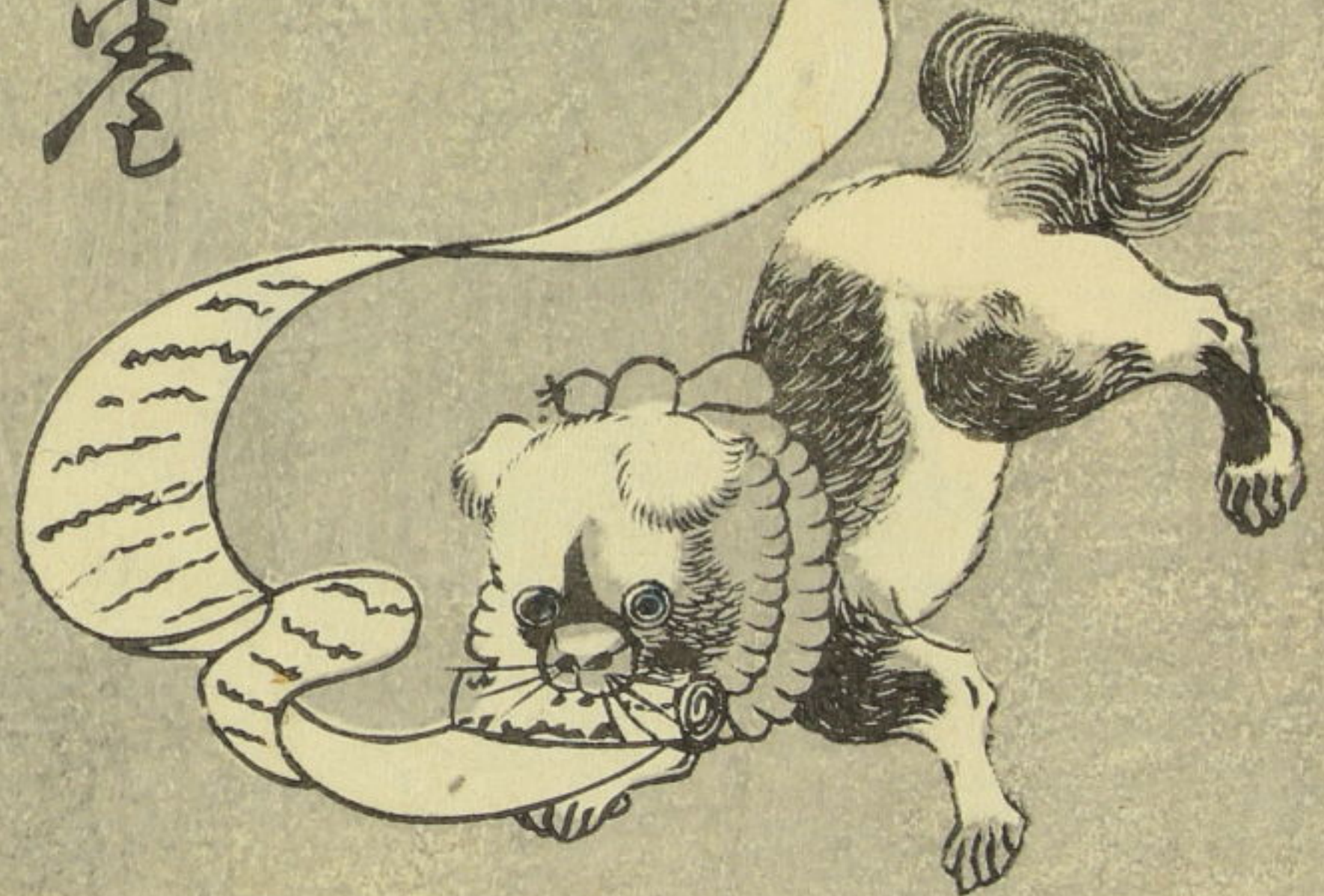
名係

標

弘化五  
 戊申  
 新板

八海

の巻



門人  
 國書也

甘  
 堂  
 持



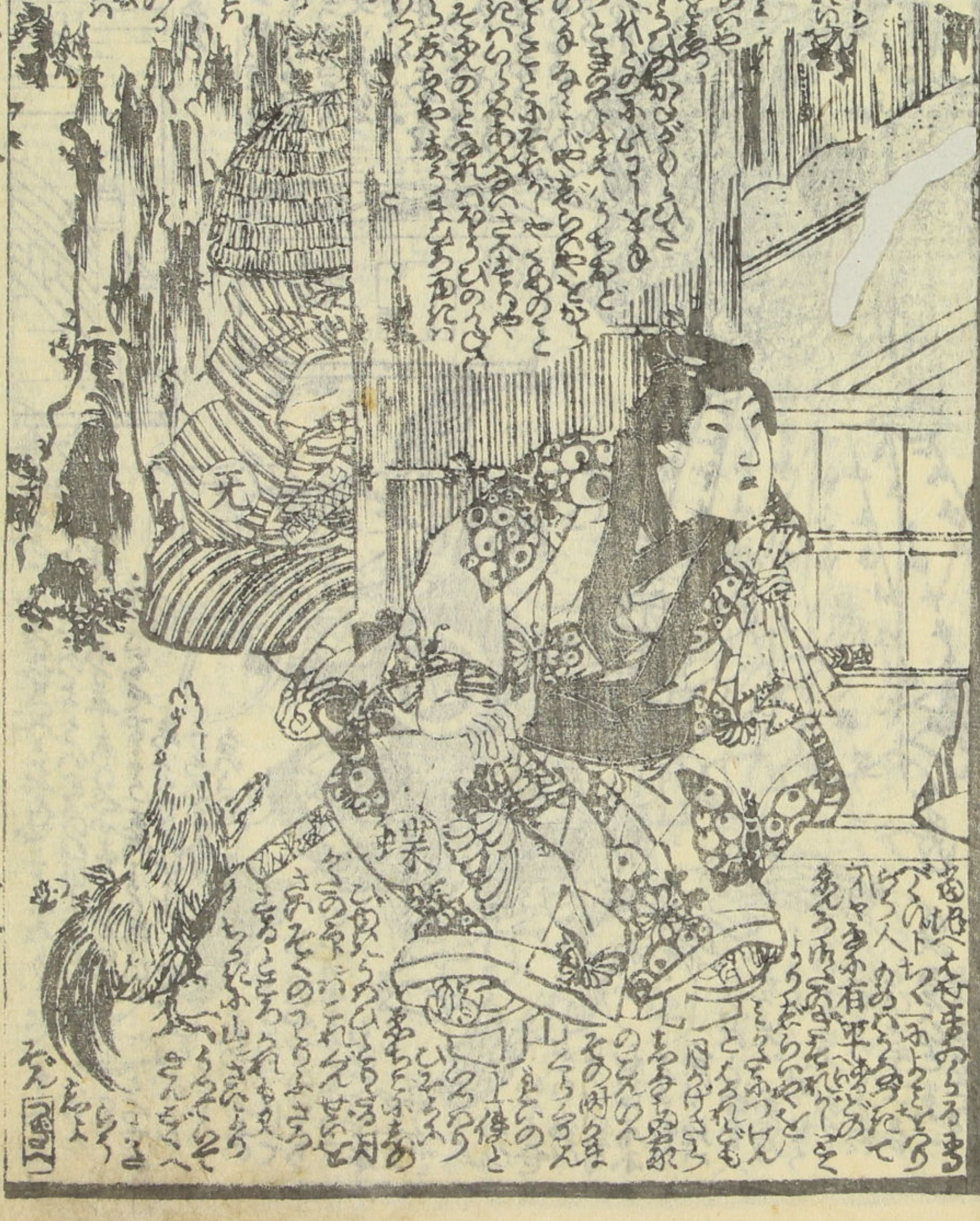




Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a narrative or commentary, surrounding the illustration on the right page.



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a narrative or commentary, surrounding the illustration on the left page.





此の御世に於ては  
 女は男に劣らざる  
 事多し其の由は  
 女も男と同じく  
 学問を好む事  
 多し其の由は  
 女も男と同じく  
 学問を好む事  
 多し其の由は  
 女も男と同じく  
 学問を好む事  
 多し其の由は

此の御世に於ては  
 女は男に劣らざる  
 事多し其の由は  
 女も男と同じく  
 学問を好む事  
 多し其の由は  
 女も男と同じく  
 学問を好む事  
 多し其の由は  
 女も男と同じく  
 学問を好む事  
 多し其の由は

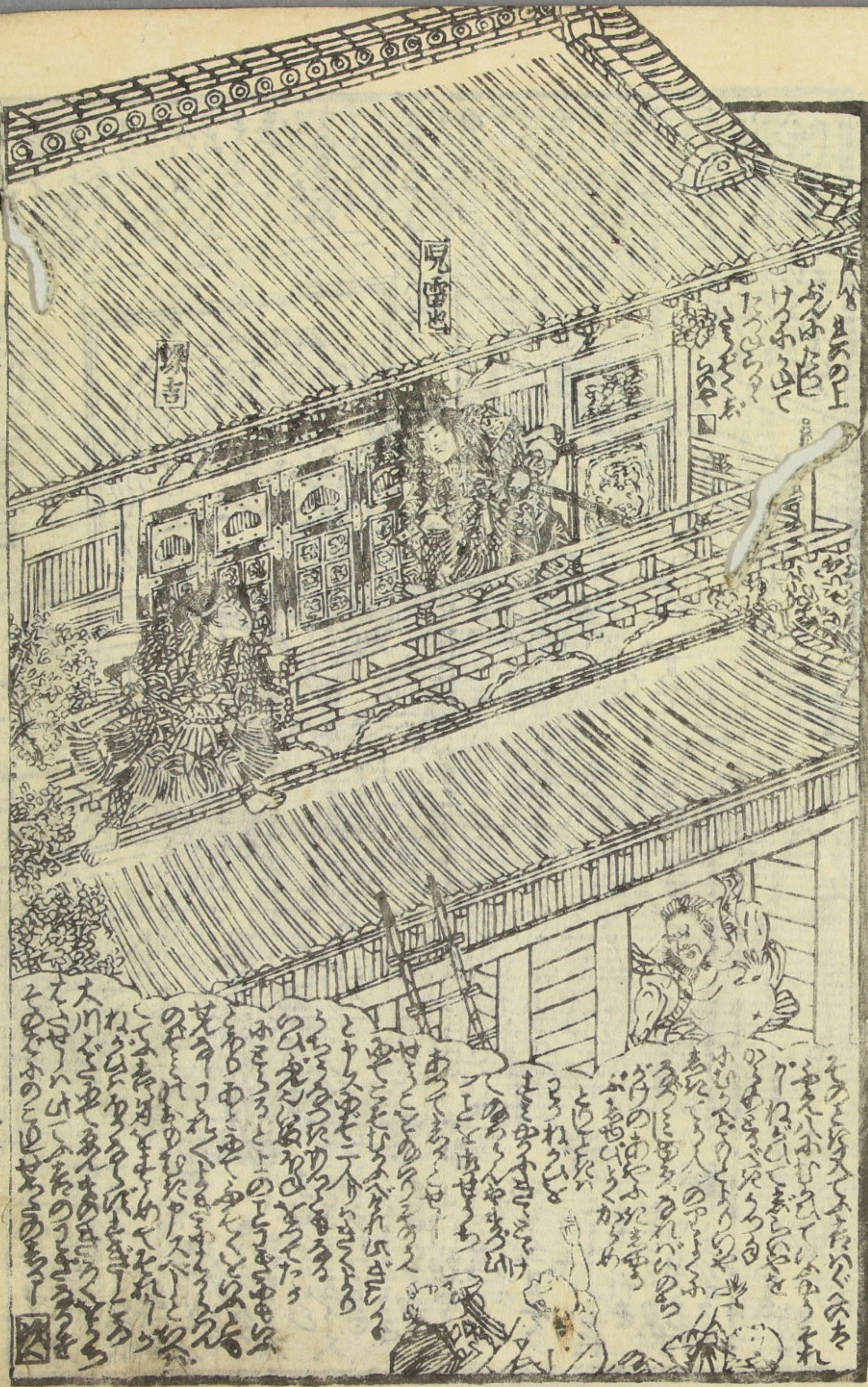


此の御世に於ては  
 男は女に劣らざる  
 事多し其の由は  
 男も女と同じく  
 学問を好む事  
 多し其の由は  
 男も女と同じく  
 学問を好む事  
 多し其の由は

此の御世に於ては  
 男は女に劣らざる  
 事多し其の由は  
 男も女と同じく  
 学問を好む事  
 多し其の由は  
 男も女と同じく  
 学問を好む事  
 多し其の由は



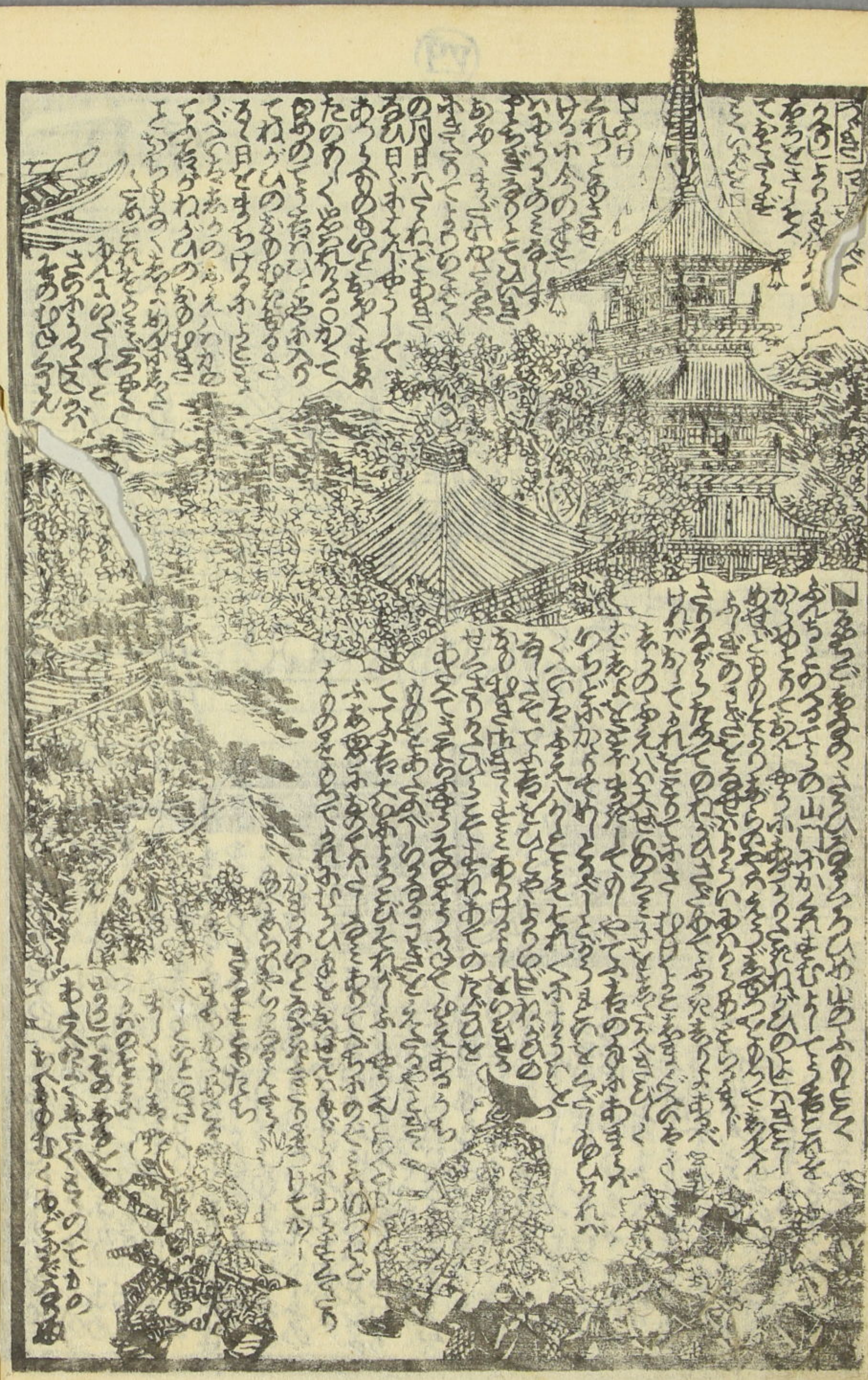




あはれの上  
けりあつて  
たのしみ  
あはれの上  
けりあつて  
たのしみ

あはれの上  
けりあつて  
たのしみ  
あはれの上  
けりあつて  
たのしみ

あはれの上  
けりあつて  
たのしみ  
あはれの上  
けりあつて  
たのしみ



あはれの上  
けりあつて  
たのしみ  
あはれの上  
けりあつて  
たのしみ

あはれの上  
けりあつて  
たのしみ  
あはれの上  
けりあつて  
たのしみ

あはれの上  
けりあつて  
たのしみ  
あはれの上  
けりあつて  
たのしみ

あつておの  
れんかあ  
てんあま  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの



あつておの  
れんかあ  
てんあま  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの



あつておの  
れんかあ  
てんあま  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの



三住持の侍の儀は...

此の儀は...

山の神の...

此の儀は...



此の儀は...

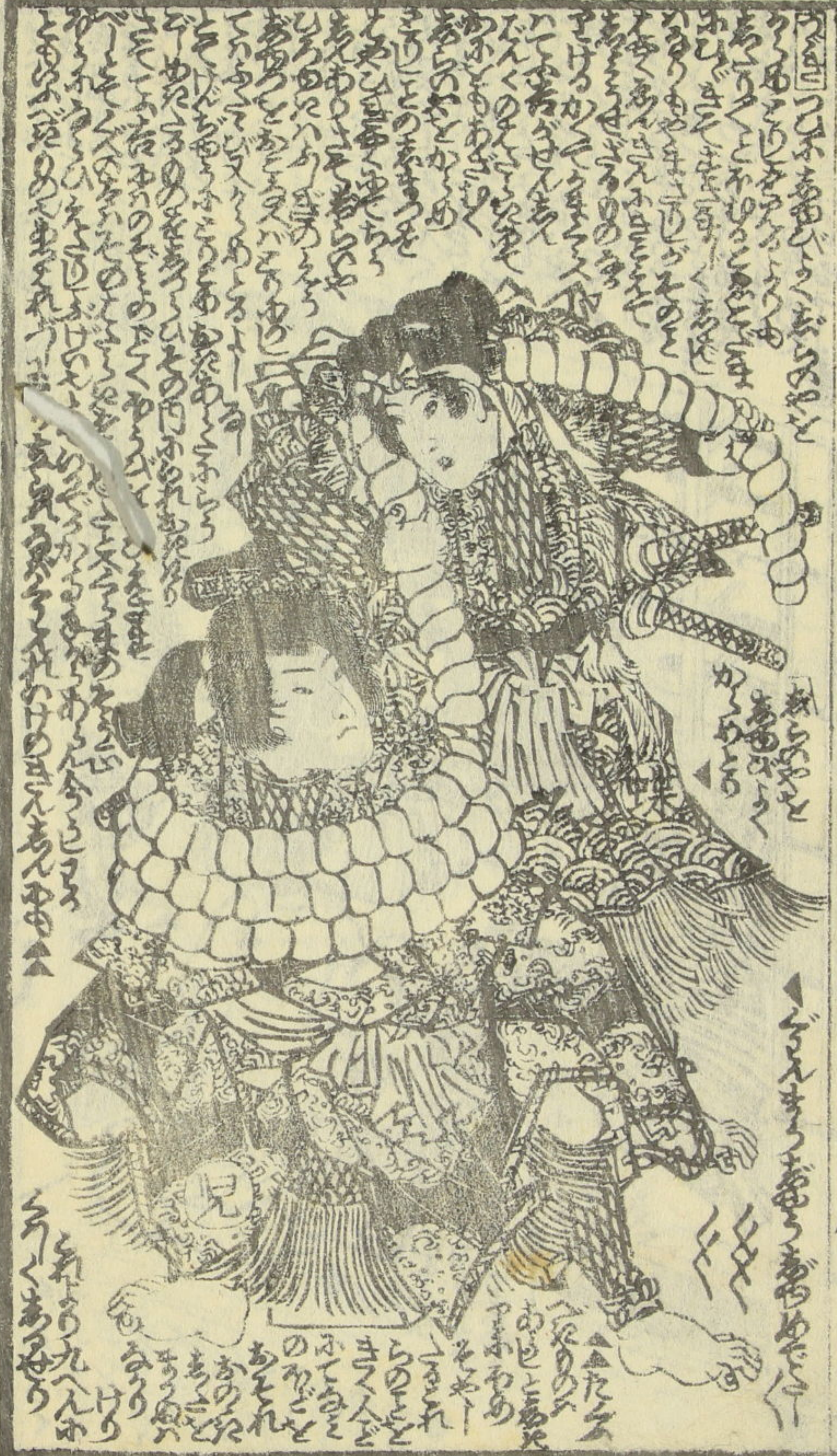
此の儀は...

此の儀は...





一陽齋豊國画○美圖垣笑顔作



兒雷也傑譚 廿一篇 柳下亭種員作

女房也 六篇 今業平昔面影 七篇

祥瑞白菊物語 五篇 錦朝樓芳虎画

新編金瓶梅全輯 自初編 至十編 曲亭馬琴翁作

嘉永六年癸丑孟陬發市標目

書肆甘泉堂芝神明前和泉屋市兵衛版

